様式第２号の１－②【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の１－①を用いること。

| | |
|---|---|
| 学校名 | 大阪バイオメディカル専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人佐藤学園 |

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 課程名 | 学科名 | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数 | 省令で定める基準単位数 | 配置困難 |
|---|---|---|---|---|---|
| 工業専門課程 | バイオ学科 | 夜・通信 | 10 単位（240 時間） | 10 単位（240 時間） | |
| | バイオ技術学科（昼間） | 夜・通信 | ７単位（160 時間） | ７単位（160 時間） | |
| | IT プログラミング学科 | 夜・通信 | 10 単位（240 時間） | 10 単位（240 時間） | |
| 文化・教養専門課程 | 日本語学科（２年） | 夜・通信 | | | ※ |
| | 日本語学科（１年６か月） | 夜・通信 | | | ※ |
| | 日本文化教養学科 | 夜・通信 | | | ※ |
| 商業実務専門課程 | 医療事務総合学科 | 夜・通信 | ７単位（160 時間） | ７単位（160 時間） | |
| | 医療福祉心理学科 | 夜・通信 | 10 単位（240 時間） | 10 単位（240 時間） | |

（備考）
・IT プログラミング学科は、令和７年度新設学科であり、完成年度に至っていない。
・（）内の数字は「学校教育法施行規則等の附則第２条（経過措置）」に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を併記している。

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.obm.ac.jp/about/history

３．要件を満たすことが困難である学科

| |
|---|
| 学科名：ＩＴプログラミング学科、日本語学科（２年）、日本語学科（１年６か月）、日本文化教養学科 |
| （困難である理由）<br>・ＩＴプログラミング学科は、2025（令和７）年４月開講であり完成年度に達していないため、実務経験のある教員の担当する単位数は完成年度での設置計画に基づいて記載。<br>・日本語学科（２年）、日本語学科（１年６か月）は、海外からの留学生を対象に日本語教育を行う学科（日本語教育機関）であるため、また、日本文化教養学科は、特定の職業を想定せず、専ら日本の文化、所作に関する知識、技能の習得を目的とする学科のため、実務経験のある教員を配置することが困難である。 |

様式第２号の２－①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

| | |
|---|---|
| 学校名 | 大阪バイオメディカル専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人佐藤学園 |

１．理事（役員）名簿の公表方法

https://www.obm.ac.jp/about/history

２．学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容や期待する役割 |
|---|---|---|---|
| 非常勤 | 株式会社取締役<br>（平成 14 年８月１日～） | 平成 20 年４月１日～令和９年６月開催の定時評議員会終結時まで | 組織運営体制へのチェックおよび経営計画の策定 |
| 非常勤 | 医師<br>（平成 20 年４月１日～） | 令和２年４月１日～令和９年６月開催の定時評議員会終結時まで | 学校運営に関する助言 |
| （備考） | | | |

様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|---|---|
| 学校名 | 大阪バイオメディカル専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人佐藤学園 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）
バイオ学科（３年制)、バイオ技術学科（昼間)（２年制)、ＩＴプログラミング学科（３年制)、医療事務総合学科（２年制)、医療福祉心理学科（３年制）

※授業計画（シラバス）の作成過程
　授業計画（シラバス）は、毎年度学科会議を開催し、以下の内容について検討を行うことで作成している。
１）授業内容、２）到達目標、３）授業方法、４）授業科目の設定、５）授業スケジュール、６）担当教員、７）その他必要事項

※公表時期
　前期及び通年科目については、前年度の３月末頃、後期科目については当年度の８月末ごろにＷｅｂサイト上に公開している。

| | |
|---|---|
| 授業計画書の公表方法 | https://www.obm.ac.jp/about/history |

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）
単位認定に係る各科目の評価は、各科目の試験・授業態度・出席状況・実習の成果・発表・レポート等を総合的に評価する。配点は下表のとおり。

| | | |
|---|---|---|
| 出席点 | 40 点 | 出席時数が各科目の３分の２以上の者に対し、その出席時数に応じて評価する |
| 試験点・平常点 | 60 点 | 本試験は 60 点満点で評価する |

上記総合評価が 60 点以上の者に当該強化の履修を認定し、評定は点数に応じて、下表のとおりとする。

| 総合評価 | 90 点以上 | 89 点以下<br>80 点以上 | 79 点以下<br>70 点以上 | 69 点以下<br>60 点以上 | 59 点以下 |
|---|---|---|---|---|---|
| 評定 | S | A | B | C | D |
| 合否 | 合格 | 合格 | 合格 | 合格 | 不合格 |

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

ＧＰＡ制度を採用しており、その算出方法は、総合成績の評定（Ｓ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ）に応じて５段階のグレードポイント（以下ＧＰ）を設定し、各履修科目のＧＰを合算した上で、全履修科目数で除し、小数点第３位以下を切り捨てる。

各評定とＧＰの関係は下表のとおり。

| 合否区分 | 評価 | 評点 | ＧＰ |
|---|---|---|---|
| 合格 | S | 100 点～90 点 | 4.0 |
| | A | 89 点～80 点 | 3.0 |
| | B | 79 点～70 点 | 2.0 |
| | C | 69 点～60 点 | 1.0 |
| 不合格 | D | 59 点以下 | 0.0 |
| 履修取消 | － | ＧＰＡ算出対象外 | |

| | |
|---|---|
| 客観的な指標の算出方法の公表方法 | https://www.obm.ac.jp/about/history |

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

「為世為人　技器育成」を綱領とし、個性を大切にしながらも技（技術）と心を磨き、他人を支え未来を築く人材の育成を目標としています。この目標達成に向け、本校では教育課程を通じて授与する学位に関して、以下に示す２つの方針に従って、専門士の学位を授与します。

・学科に所定の期間在学し、卒業並びに修了に必要な単位を修得し、当該学科が定める審査に合格する。
・卒業までに、本校学生が、それぞれの学科の教育課程を通じて身につけるべき以下の能力を修得する。
　１．専門的な知識
　２．現場で役立つ技術、特にコミュニケーション、チームワーク、プレゼンテーション能力
　３．磨かれた心、特に他者への思いやり、総合的な経験に基づき問題解決に向けて邁進する能力

それぞれの学科の教育課程で身につけるべき専門的知識は、各学科で定める。

| | |
|---|---|
| 卒業の認定に関する方針の公表方法 | https://www.obm.ac.jp/about/history |

様式第２号の４－②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の４－①を用いること。

| | |
|---|---|
| 学校名 | 大阪バイオメディカル専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人佐藤学園 |

## １．財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|---|---|
| 貸借対照表 | https://www.obm.ac.jp/about/history |
| 収支計算書又は損益計算書 | https://www.obm.ac.jp/about/history |
| 財産目録 | https://www.obm.ac.jp/about/history |
| 事業報告書 | https://www.obm.ac.jp/about/history |
| 監事による監査報告（書） | https://www.obm.ac.jp/about/history |

## ２．教育活動に係る情報

### ①学科等の情報

| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 |
|---|---|---|---|---|
| 工業 | 工業専門課程 | バイオ学科 | ○ | |

| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| ３年 | 昼 | 112 単位（2,550 単位時間） | 83 単位（990 単位時間） | 23 単位（660 単位時間） | 80 単位（2400 単位時間） | － | － |
| | | | 186 単位（4050 単位時間） | | | | |

| 学生総定員数 | 学生実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 120 人 | 108 人 | 14 人 | ５人のうち数 | 10 人のうち数 | 15 人のうち数 |

| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
|---|
| （概要）<br>授業計画（シラバス）は、学科会議による検討結果を踏まえ、各科目の担当講師が作成し、前期および通年科目は前年度３月末頃、後期科目は８月末頃に Web サイトに公表する。 |
| 成績評価の基準・方法 |
| （概要）<br>単位認定に係る各科目の評価は、各科目の試験、授業態度、出席状況、実習の成果、発表、レポート等を総合的に評価する。配点は、「試験点・平常点」を 60 点、「出席点」を 40 点とし、総合評価は 100 点満点で算出する。<br>上記総合評価が 60 点以上の者に、当該科目の履修を認定し、点数に応じて 90 点以上「S」、89 点～80 点「A」、79 点～70 点「B」、69 点～60 点「C」、59 点以下「D」として、59 点以下は不合格となる。 |
| 卒業・進級の認定基準 |
| （概要）<br>１年次 38 単位以上、２年次 40 単位以上の履修をもって進級とする。卒業の認定は、所定の修業年限以上在学し、かつバイオ学科所定の全課程の修了に必要な 112 単位以上の履修が認められた者に対して、卒業認定会議で学校長の確認・決定のう |

| |
|---|
| え卒業を認定し、卒業証書を授与する。 |
| 学修支援等 |
| （概要）<br>・佐藤学園奨学金制度を整備し、進級者の中から成績優秀かつ、他の学生の模範となる等、総合的に優秀な学生に奨学金を恵与する。<br>・成績不振者、出席不良者への補習、補講の実施および該当学生保護者との連携を図っている。<br>・スクールカウンセラーを設置し、学生生活、日常生活のフォローアップを行う。 |

| 卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
|---|---|---|---|
| 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数<br>（自営業を含む。） | その他 |
| ２６人<br>（100%） | ０人<br>（０%） | ２６人<br>（100%） | ０人<br>（０%） |
| （主な就職、業界等）<br>医薬品メーカー、飲食品メーカー、環境調査会社、再生医療関連業界など | | | |
| （就職指導内容）<br>校内就職説明会の開催、履歴書等応募書類添削指導、面接指導など | | | |
| （主な学修成果（資格・検定等））<br>バイオ技術者認定試験（中級）、環境社会検定、ＱＣ検定（３級・４級）など | | | |
| （備考）（任意記載事項） | | | |

| 中途退学の現状 | | |
|---|---|---|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| ９２人 | ２人 | 2.2% |
| （中途退学の主な理由）<br>学校生活不適応 | | |
| （中退防止・中退者支援のための取組）<br>・出席不良者への電話連絡、個別面談の実施、家庭・保護者との連携<br>・スクールカウンセラーとの面談　など | | |

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">工業</td><td>工業専門課程</td><td colspan="2">バイオ技術学科<br>（昼間）</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">２年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">６６単位<br>（1,700 単位時間）</td><td>38 単位<br>（570 単位時間）</td><td>25 単位<br>（750 単位時間）</td><td>56 単位<br>（1,680 単位時間）</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="5">119 単位（3,000 単位時間）</td></tr>
</table>

| 学生総定員数 | 学生実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 80 人 | 44 人 | 16 人 | ５人のうち数 | 10 人のうち数 | 15 人のうち数 |

| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
|---|
| （概要）<br>授業計画（シラバス）は、学科会議による検討結果を踏まえ、各科目の担当講師が作成し、前期および通年科目は前年度３月末頃、後期科目は８月末頃に Web サイトに公表する。 |
| 成績評価の基準・方法 |
| （概要）<br>単位認定に係る各科目の評価は、各科目の試験、授業態度、出席状況、実習の成果、発表、レポート等を総合的に評価する。配点は、「試験点・平常点」を 60 点、「出席点」を 40 点とし、総合評価は 100 点満点で算出する。<br>上記総合評価が 60 点以上の者に当該科目の履修を認定し、点数に応じて 90 点以上「Ｓ」、89 点～80 点「Ａ」、79 点～70 点「Ｂ」、69 点～60 点「Ｃ」、59 点以下「Ｄ」として、59 点以下「Ｄ」は不合格となる。 |
| 卒業・進級の認定基準 |
| （概要）<br>１年次 34 単位以上の履修をもって進級とし、バイオ技術学科（昼間）所定の全課程の修了に必要な 66 単位以上の履修が認められた者に対して、卒業認定会議で学校長の確認・決定のうえ卒業を認定し、卒業証書を授与する。 |
| 学修支援等 |
| （概要）<br>・佐藤学園奨学金制度を整備し、進級生の中から成績優秀かつ、他の学生の模範となるなど、総合的に優秀な学生に奨学金を恵与する。<br>・成績不振者、出席不良者への補習、補講の実施および該当学生保護者との連携を図る。<br>・スクールカウンセラーを設置し、学生生活、日常生活のフォローアップを行う。 |

| 卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
|---|---|---|---|
| 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数<br>（自営業を含む。） | その他 |
| ２９人<br>（100%） | １人<br>（3.5%） | ２７人<br>（93.0%） | １人<br>（3.5%） |

| |
|---|
| （主な就職、業界等）<br>医薬品メーカー、飲食品メーカー、環境調査企業等 |
| （就職指導内容）<br>校内就職説明会の開催、履歴書等応募書類添削指導、面接指導など |
| （主な学修成果（資格・検定等））<br>バイオ技術者認定試験（中級）、環境社会検定、ＱＣ検定（３級・４級）など |
| （備考）（任意記載事項） |

| 中途退学の現状 | | |
|---|---|---|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| ５５人 | １人 | 1.8% |
| （中途退学の主な理由）<br>学校生活不適応 | | |
| （中退防止・中退者支援のための取組）<br>・出席不良者への電話連絡、個別面談の実施、家庭・保護者との連携<br>・スクールカウンセラーとの面談　など | | |

| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 |
|---|---|---|---|---|
| 工業 | 工業専門課程 | IT プログラミング学科 | ○ | |

| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| ３年 | 昼 | 133 単位<br>（2,550 単位時間） | 55 単位（930 単位時間） | 102 単位（1,710 単位時間） | 44 単位（1,320 単位時間） | - | - |
| | | | 201 単位（3,960 単位時間） | | | | |

| 学生総定員数 | 学生実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 120 人 | 49 人 | 37 人 | １人 | ８人のうち数 | ９人のうち数 |

| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
|---|
| （概要）<br>授業計画（シラバス）は、学科会議による検討結果を踏まえ、各科目の担当講師が作成し、前期および通年科目は前年度３月末頃、後期科目は８月末頃に Web サイトに公表する。 |
| 成績評価の基準・方法 |
| （概要）<br>単位認定に係る各科目の評価は、各科目の試験、授業態度、出席状況、実習の成果、発表、レポート等を総合的に評価する。配点は、「試験点・平常点」を 60 点、「出席点」を 40 点とし、総合評価は 100 点満点で算出する。 |

| |
|---|
| 上記総合評価が 60 点以上の者に当該科目の履修を認定し、点数に応じて 90 点以上「Ｓ」、89 点～80 点「Ａ」、79 点～70 点「Ｂ」、69 点～60 点「Ｃ」、59 点以下「Ｄ」として、59 点以下「Ｄ」は不合格となる。 |
| 卒業・進級の認定基準 |
| （概要）<br>1 年次 47 単位、2 年次 48 単位以上の履修をもって進級とし、IT プログラミング学科所定の全課程の修了に必要な 133 単位以上の履修が認められた者に対して、卒業認定会議で学校長の確認・決定のうえ卒業を認定し、卒業証書を授与する。 |
| 学修支援等 |
| （概要）<br>・佐藤学園奨学金制度を整備し、進級生の中から成績優秀かつ、他の学生の模範となるなど、総合的に優秀な学生に奨学金を恵与する。<br>・成績不振者、出席不良者への補習、補講の実施および該当学生保護者との連携を図る。<br>・スクールカウンセラーを設置し、学生生活、日常生活のフォローアップを行う。 |

| 卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
|---|---|---|---|
| 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数<br>（自営業を含む。） | その他 |
| ０人<br>（100%） | ０人<br>（　０%） | ０人<br>（　０%） | ０人<br>（　０%） |
| （主な就職、業界等） | | | |
| （就職指導内容） | | | |
| （主な学修成果（資格・検定等）） | | | |
| （備考）（任意記載事項）<br>2025 年４月新設学科のため、卒業生なし | | | |

| 中途退学の現状 | | |
|---|---|---|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| ２２人 | ３人 | 13.6% |
| （中途退学の主な理由）<br>家庭の事情、精神的疾患、その他 | | |
| （中退防止・中退者支援のための取組）<br>・出席不良者への電話連絡、個別面談の実施、家庭・保護者との連携<br>・スクールカウンセラーとの面談　など | | |

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">商業実務</td><td>商業実務<br>専門課程</td><td colspan="2">医療事務総合学科</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業<br>年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">２年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">94 単位<br>（1,700 単位時間）</td><td>41 単位<br>（675 単位時間）</td><td>102 単位<br>（1,725 単位時間）</td><td>16 単位<br>（390 単位時間）</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="5">159 単位（3,135 単位時間）</td></tr>
</table>

| 学生総定員数 | 学生実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 160 人 | 63 人 | 1 人 | ３人 | 14 人のうち数 | 17 人のうち数 |

| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
|---|
| （概要）<br>授業計画（シラバス）は、学科会議による検討結果を踏まえ、各科目の担当講師が作成し、前期および通年科目は前年度３月末頃、後期科目は８月末頃に Web サイトに公表する。 |
| 成績評価の基準・方法 |
| （概要）<br>単位認定に係る各科目の評価は、各科目の試験、授業態度、出席状況、実習の成果、発表、レポート等を総合的に評価する。配点は、「試験点・平常点」を 60 点、「出席点」を 40 点とし、総合評価は 100 点満点で算出する。<br>上記総合評価が 60 点以上の者に当該科目の履修を認定し、点数に応じて 90 点以上「Ｓ」、89 点～80 点「Ａ」、79 点～70 点「Ｂ」、69 点～60 点「Ｃ」、59 点以下「Ｄ」として、59 点以下「Ｄ」は不合格となる。 |
| 卒業・進級の認定基準 |
| （概要）<br>１年次 47 単位以上の履修をもって進級とし、医療事務総合学科所定の全課程の修了に必要な 94 単位以上の履修が認められた者に対して、卒業認定会議で学校長の確認・決定のうえ卒業を認定し、卒業証書を授与する。 |
| 学修支援等 |
| （概要）<br>・佐藤学園奨学金制度を整備し、進級生の中から成績優秀かつ、他の学生の模範となるなど、総合的に優秀な学生に奨学金を恵与する。<br>・成績不振者、出席不良者への補習、補講の実施および該当学生保護者との連携を図る。<br>・スクールカウンセラーを設置し、学生生活、日常生活のフォローアップを行う。 |

| 卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
|---|---|---|---|
| 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数<br>（自営業を含む。） | その他 |
| 36 人<br>（100%） | 0 人<br>（０%） | 34 人<br>（94.4%） | 2 人<br>（5.6%） |

| |
|---|
| （主な就職、業界等）<br>病院、クリニック、調剤薬局　など |
| （就職指導内容）<br>校内就職説明会の開催、履歴書等応募書類添削指導、面接指導など |
| （主な学修成果（資格・検定等））<br>医科医療事務管理士技能認定試験、調剤事務管理士、Word 文書処理技能認定試験、Excel 表計算処理技能認定試験　など |
| （備考）（任意記載事項） |

| 中途退学の現状 | | |
|---|---|---|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| ６４人 | ４人 | 6.3% |
| （中途退学の主な理由）<br>進路変更、学校生活不適応 | | |
| （中退防止・中退者支援のための取組）<br>・出席不良者への電話連絡、個別面談の実施、家庭・保護者との連携<br>・スクールカウンセラーとの面談　など | | |

| 分野 | | 課程名 | 学科名 | | | 専門士 | | 高度専門士 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 商業実務 | | 商業実務<br>専門課程 | 医療福祉心理学科 | | | ○ | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | |
| ３年 | 昼 | 134 単位<br>（2,550 単位時間） | 119 単位（1,830 単位時間） | 102 単位（1,870 単位時間） | 43 単位（1,200 単位時間） | － | ５単位（120 単位時間） | |
| | | | 269 単位（5,020 単位時間） | | | | | |

| 学生総定員数 | 学生実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 120 人 | 94 人 | ０人 | ２人 | 27 人のうち数 | 29 人のうち数 |

| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
|---|
| （概要）<br>授業計画（シラバス）は、学科会議による検討結果を踏まえ、各科目の担当講師が作成し、前期および通年科目は前年度３月末頃、後期科目は８月末頃に Web サイトに公表する。 |
| 成績評価の基準・方法 |
| （概要）<br>単位認定に係る各科目の評価は、各科目の試験、授業態度、出席状況、実習の成果、発表、レポート等を総合的に評価する。配点は、「試験点・平常点」を 60 点、「出席点」を 40 点とし、総合評価は 100 点満点で算出する。 |

| |
|---|
| 上記総合評価が60点以上の者に当該科目の履修を認定し、点数に応じて90点以上「S」、89点～80点「A」、79点～70点「B」、69点～60点「C」、59点以下「D」として、59点以下「D」は不合格となる。 |
| 卒業・進級の認定基準 |
| （概要）<br>1年次43単位、２年次48単位以上の履修をもって進級とし、医療福祉心理学科所定の全課程の修了に必要な134単位以上の履修が認められた者に対して、卒業認定会議で学校長の確認・決定のうえ卒業を認定し、卒業証書を授与する。 |
| 学修支援等 |
| （概要）<br>・佐藤学園奨学金制度を整備し、進級生の中から成績優秀かつ、他の学生の模範となるなど、総合的に優秀な学生に奨学金を恵与する。<br>・成績不振者、出席不良者への補習、補講の実施および該当学生保護者との連携を図る。<br>・スクールカウンセラーを設置し、学生生活、日常生活のフォローアップを行う。 |

| 卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
|---|---|---|---|
| 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数<br>（自営業を含む。） | その他 |
| 33人<br>（100%） | 0人<br>（　　0%） | 28人<br>（84.8%） | 5人<br>（15.2%） |
| （主な就職、業界等）<br>精神科病院、放課後等デイサービス事業、就労移行支援事業所　など | | | |
| （就職指導内容）<br>校内就職説明会の開催、履歴書等応募書類添削指導、面接指導など | | | |
| （主な学修成果（資格・検定等））<br>ビジネス実務マナー検定、Word文書処理技能認定試験、Excel表計算処理技能認定試験、メンタルヘルスマネジメント検定　など | | | |
| （備考）（任意記載事項） | | | |

| 中途退学の現状 | | |
|---|---|---|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 97人 | 11人 | 11.3% |
| （中途退学の主な理由）<br>進路変更、学校生活不適応、その他 | | |
| （中退防止・中退者支援のための取組）<br>・出席不良者への電話連絡、個別面談の実施、家庭・保護者との連携<br>・スクールカウンセラーとの面談　など | | |

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">文化・教養</td><td>文化・教養<br>専門課程</td><td colspan="2">日本文化教養学科</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業<br>年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総<br>単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1 年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">39 単位</td><td>28 単位</td><td>14 単位</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="5">42 単位</td></tr>
</table>

| 学生総定員数 | 学生実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 80 人 | 47 人 | 47 人 | 1 人 | ８人のうち数 | ９人のうち数 |

| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
|---|
| （概要）<br>授業計画（シラバス）は、学科会議による検討結果を踏まえ、各科目の担当講師が作成し、前期および通年科目は前年度３月末頃、後期科目は８月末頃に Web サイトに公表する。 |
| 成績評価の基準・方法 |
| （概要）<br>単位認定に係る各科目の評価は、各科目の試験、授業態度、出席状況、実習の成果、発表、レポート等を総合的に評価する。配点は、「試験点・平常点」を 60 点、「出席点」を 40 点とし、総合評価は 100 点満点で算出する。<br>上記総合評価が 60 点以上の者に当該科目の履修を認定し、点数に応じて 90 点以上「Ｓ」、89 点～80 点「Ａ」、79 点～70 点「Ｂ」、69 点～60 点「Ｃ」、59 点以下「Ｄ」として、59 点以下「Ｄ」は不合格となる。 |
| 卒業・進級の認定基準 |
| （概要）<br>日本文化教養学科所定の全課程の修了に必要な 39 単位以上の履修が認められ、出席率が通算 80%以上あり、卒業判定テストに合格した者に対して、卒業認定会議で学校長の確認・決定のうえ卒業を認定し、卒業証書を授与する。 |
| 学修支援等 |
| （概要）<br>・成績不振者、出席不良者への補習、補講の実施および該当学生保護者との連携を図る。<br>・スクールカウンセラーを設置し、学生生活、日常生活のフォローアップを行う。 |

| 卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
|---|---|---|---|
| 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数<br>（自営業を含む。） | その他 |
| 71 人<br>（100%） | 60 人<br>（84.5%） | 7 人<br>（9.9%） | 4 人<br>（5.6%） |
| （主な就職、業界等）<br>サービス業、不動産業、ホテル業　など | | | |

| |
|---|
| （就職指導内容）<br>校内就職説明会の開催、履歴書等応募書類添削指導、面接指導など |
| （主な学修成果（資格・検定等））<br>日本語能力試験（JLPT）、日本留学試験（EJU）など |
| （備考）（任意記載事項） |

| 中途退学の現状 | | |
|---|---|---|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 83 人 | 12 人 | 14.5% |
| （中途退学の主な理由）<br>進路変更、家庭の事情、問題行動による懲戒 | | |
| （中退防止・中退者支援のための取組）<br>・出席不良者への電話連絡、個別面談の実施、家庭・保護者との連携<br>・スクールカウンセラーとの面談　など | | |

| 分野 | | 課程名 | 学科名 | | 専門士 | | 高度専門士 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 文化・教養 | | 文化・教養<br>専門課程 | 日本語学科<br>（２年） | | ○ | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| ２年 | 昼 | 102 単位<br>（1,600 単位時間） | 110 単位（1,680 単位時間） | 10 単位（210 単位時間） | - | - | - |
| | | | 120 単位（1,890 単位時間） | | | | |

| 学生総定員数 | 学生実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 120 人 | 109 人 | 109 人 | ７人のうち数 | 18 人のうち数 | 25 人のうち数 |

| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
|---|
| （概要）<br>授業計画（シラバス）は、学科会議による検討結果を踏まえ、各科目の担当講師が作成し、前期および通年科目は前年度３月末頃、後期科目は８月末頃に Web サイトに公表する。 |
| 成績評価の基準・方法 |
| （概要）<br>単位認定に係る各科目の評価は、各科目の試験、授業態度、出席状況、実習の成果、発表、レポート等を総合的に評価する。配点は、「試験点・平常点」を 60 点、「出席点」を 40 点とし、総合評価は 100 点満点で算出する。<br>上記総合評価が 60 点以上の者に当該科目の履修を認定し、点数に応じて 90 点以上「Ｓ」、89 点～80 点「Ａ」、79 点～70 点「Ｂ」、69 点～60 点「Ｃ」、59 点以下「Ｄ」として、59 点以下「Ｄ」は不合格となる。 |

| 卒業・進級の認定基準 |
|---|
| （概要）<br>１年次 52 単位以上の履修をもって進級とし、日本語学科（２年）所定の全課程の修了に必要な 102 単位以上の履修が認められ、出席率が通算 80％以上あり、卒業判定テストに合格した者に対して、卒業認定会議で学校長の確認・決定のうえ卒業を認定し、卒業証書を授与する。 |
| 学修支援等 |
| （概要）<br>・成績不振者、出席不良者への補習、補講の実施および該当学生保護者との連携を図る。<br>・スクールカウンセラーを設置し、学生生活、日常生活のフォローアップを行う。 |

| 卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
|---|---|---|---|
| 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数<br>（自営業を含む。） | その他 |
| 56 人<br>（100%） | 47 人<br>（83.9%） | 3 人<br>（5.4%） | 6 人<br>（10.7%） |
| （主な就職、業界等）<br>飲食業、物流業、サービス業 | | | |
| （就職指導内容）<br>校内就職説明会の開催、履歴書等応募書類添削指導、面接指導など | | | |
| （主な学修成果（資格・検定等））<br>日本語能力試験（JLPT）、日本留学試験（EJU）など | | | |
| （備考）（任意記載事項） | | | |

| 中途退学の現状 | | |
|---|---|---|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 121 人 | 12 人 | 9.9% |
| （中途退学の主な理由）<br>進路変更・家庭の事情、学業不振　など | | |
| （中退防止・中退者支援のための取組）<br>・出席不良者への電話連絡、個別面談の実施、家庭・保護者との連携<br>・スクールカウンセラーとの面談　など | | |

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">文化・教養</td><td>文化・教養<br>専門課程</td><td colspan="2">日本語学科<br>（１年６か月）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業<br>年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1.5<br>年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">76 単位<br>（1,200 単位時間）</td><td>85 単位<br>（305 単位時間）</td><td>９単位<br>（1,350 単位時間）</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="5">94 単位（1,655 単位時間）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>学生総定員数</td><td>学生実員</td><td>うち留学生数</td><td>専任教員数</td><td>兼任教員数</td><td>総教員数</td></tr>
<tr><td>80 人</td><td>38 人</td><td>38 人</td><td>７人のうち数</td><td>18 人のうち数</td><td>25 人のうち数</td></tr>
</table>

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）
授業計画（シラバス）は、学科会議による検討結果を踏まえ、各科目の担当講師が作成し、前期および通年科目は前年度３月末頃、後期科目は８月末頃に Web サイトに公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）
単位認定に係る各科目の評価は、各科目の試験、授業態度、出席状況、実習の成果、発表、レポート等を総合的に評価する。配点は、「試験点・平常点」を 60 点、「出席点」を 40 点とし、総合評価は 100 点満点で算出する。
上記総合評価が 60 点以上の者に当該科目の履修を認定し、点数に応じて 90 点以上「Ｓ」、89 点～80 点「Ａ」、79 点～70 点「Ｂ」、69 点～60 点「Ｃ」、59 点以下「Ｄ」として、59 点以下「Ｄ」は不合格となる。

卒業・進級の認定基準

（概要）
１年次 26 単位以上の履修をもって進級とし、日本語学科（１年６か月）所定の全課程の修了に必要な 76 単位以上の履修が認められ、出席率が通算 80%以上あり、卒業判定テストに合格した者に対して、卒業認定会議で学校長の確認・決定のうえ卒業を認定し、卒業証書を授与する。

学修支援等

（概要）
・成績不振者、出席不良者への補習、補講の実施および該当学生保護者との連携を図る。
・スクールカウンセラーを設置し、学生生活、日常生活のフォローアップを行う。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

<table>
<tr><td>卒業者数</td><td>進学者数</td><td>就職者数<br>（自営業を含む。）</td><td>その他</td></tr>
<tr><td>30 人<br>（100%）</td><td>22 人<br>（73.3%）</td><td>3 人<br>（10.0%）</td><td>5 人<br>（16.7%）</td></tr>
<tr><td colspan="4">（主な就職、業界等）<br>製造業、サービス業、その他</td></tr>
</table>

| |
|---|
| （就職指導内容）<br>校内就職説明会の開催、履歴書等応募書類添削指導、面接指導など |
| （主な学修成果（資格・検定等））<br>日本語能力試験（JLPT）、日本留学試験（EJU）など |
| （備考）（任意記載事項） |

| 中途退学の現状 | | |
|---|---|---|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 38 人 | 1 人 | 2.6% |
| （中途退学の主な理由）<br>家庭の事情 | | |
| （中退防止・中退者支援のための取組）<br>・出席不良者への電話連絡、個別面談の実施、家庭・保護者との連携<br>・スクールカウンセラーとの面談　など | | |

②学校単位の情報

ａ）「学生納付金」等

| 学科名 | 入学金 | 授業料（年間） | その他 | 備考（任意記載事項） |
|---|---|---|---|---|
| バイオ学科 | 150,000 円 | 980,000 円 | 500,000 円 | 教科書代、教材費、各種検定料等の諸費用は別途必要 |
| バイオ技術学科（昼間） | 150,000 円 | 900,000 円 | 400,000 円 | |
| IT プログラミング学科 | 150,000 円 | 980,000 円 | 370,000 円 | |
| 医療事務総合学科 | 150,000 円 | 900,000 円 | 150,000 円 | |
| 医療福祉心理学科 | 150,000 円 | 980,000 円 | 270,000 円 | |
| 日本語学科（２年） | 60,000 円 | 630,000 円 | 40,000 円 | |
| 日本語学科（１年６か月） | 60,000 円 | 630,000 円 | 40,000 円 | |
| 日本文化教養学科 | 100,000 円 | 850,000 円 | 100,000 円 | |
| 修学支援（任意記載事項） | | | | |
| | | | | |

b）学校評価

| 自己点検評価結果の公表方法 | | |
|---|---|---|
| （ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）<br>https://www.obm.ac.jp/about/history | | |
| 第三者評価の基本方針（実施方法・体制） | | |
| 企業等の学校関係者への教育課程に課する情報提供を行い、フィードバックをいただくことで、より実社会のニーズに応じた学生指導を図る。<br>評価項目について、校長を責任者として翌年度に向けて定期的に会議等により改善を図る。 | | |
| 第三者評価の委員 | | |
| 所属 | 任期 | 種別 |
| 株式会社 MIZUKEN<br>会長 | 2019 年４月１日～<br>2027 年３月 31 日<br>（任期更新） | 企業等委員 |
| 株式会社ボゾリサーチセンター<br>代表取締役 | 2019 年４月１日～<br>2027 年３月 31 日<br>（任期更新） | 企業等委員 |
| 大阪市中央区地域振興会<br>会長 | 2019 年４月１日～<br>2027 年３月 31 日<br>（任期更新） | 地域住民 |
| 卒業生保護者 | 2019 年４月１日～<br>2027 年３月 31 日<br>（任期更新） | 保護者 |
| 第三者評価結果の公表方法 | | |
| （ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）<br>https://www.obm.ac.jp/about/history | | |
| （備考） | | |
| 第三者評価は実施しておらず、評価の基本方針および評価の委員については学校関係者評価の内容を記載している。 | | |

c）当該学校に係る情報

| （ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）<br>https://www.obm.ac.jp/about/history |
|---|

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

| | |
|---|---|
| 学校コード（13桁） | H127310001842 |
| 学校名（○○大学 等） | 大阪バイオメディカル専門学校 |
| 設置者名（学校法人○○学園 等） | 学校法人佐藤学園 |

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

| | | 前半期 | 後半期 | 年間 |
|---|---|---|---|---|
| 支援対象者数<br>※括弧内は多子世帯の学生等（内数）<br>※家計急変による者を除く。 | | 87人（37）人 | 84人（34）人 | 91人（37）人 |
| 内訳 | 第Ⅰ区分 | 38人 | 34人 | |
| | （うち多子世帯） | （−人） | （−人） | |
| | 第Ⅱ区分 | − | − | |
| | （うち多子世帯） | （−人） | （０人） | |
| | 第Ⅲ区分 | − | − | |
| | （うち多子世帯） | （−人） | （−人） | |
| | 第Ⅳ区分（理工農） | − | − | |
| | 第Ⅳ区分（多子世帯） | （−人） | （−人） | |
| | 区分外（多子世帯） | 18人 | 19人 | |
| 家計急変による<br>支援対象者（年間） | | | | 0人（0）人 |
| 合計（年間） | | | | 91人（37）人 |
| （備考） | | | | |

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|---|---|
| 年間 | 0人 |

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。） | |
|---|---|---|---|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修業年限で卒業又は修了できないことが確定 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 修得単位数が「廃止」の基準に該当<br>（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当） | － | 0人 | － |
| 出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況 | － | 0人 | － |
| 「警告」の区分に連続して該当<br>※「停止」となった場合を除く。 | － | － | 0人 |
| 計 | － | － | － |
| （備考） | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

| 右以外の大学等 | | 短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。） | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 年間 | － | 前半期 | 0人 | 後半期 | － |

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|---|---|
| 退学 | 0人 |
| ３月以上の停学 | 0人 |
| 年間計 | 0人 |
| （備考） | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

| | |
|---|---|
| ３月未満の停学 | 0人 |
| 訓告 | 0人 |
| 年間計 | 0人 |
| （備考） | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。） | |
|---|---|---|---|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| ＧＰＡ等が下位４分の１ | 0人 | － | － |

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。） | |
|---|---|---|---|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修得単位数が「警告」の基準に該当<br>（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当） | 0人 | 0人 | 0人 |
| ＧＰＡ等が下位４分の１ | 15人 | － | － |
| 出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 計 | 15人 | － | － |
| （備考） | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。